

Campus Today



松本歯科大学

発行所 学校法人 松本歯科大学

長野県塩尻市広丘郷原1780

☎ (0263) 52-3100

www.mdu.ac.jp

1部60円

2023



「槍ヶ岳を望むチングルマの花咲く稜線」弓折岳

〈撮影：永澤 栄 特任教授〉

年頭のご挨拶

歯学部長 宇田川 信之

あけまして
おめでと〜うございます。

松本歯科大学創立51年目を迎える『Campus Today』新年号（第468号）です。創立者 矢ヶ崎康博士の「建学の理念」に想いを馳せ、「教育愛」を常に忘れることなく、希望に満ちた未来へと向かいましょう。

創立者 矢ヶ崎先生の「緑の学園の中で学生や研究者を学ばせたい」との思いが結実し、本学のキャンパスは、日本有数の美しい自然環境が整っています。北アルプスの高嶺から吹き下ろす爽やかな風の中、四季の移ろいに合わせてさまざまな花々が我々の目を楽しませてくれ、在学生たちはこの素晴らしい環境を享受しながら日夜勉学に励んでいます。

昨年の本学を総括します。歯学部においては、第115回歯科医師国家試験の本学の新卒者合格率は90・4%となり、全国29歯科大学・歯学部の中で2年連続第2位の結果となりました。合格者数は前年より13人増えて75人。19年ぶりに70人を超える大勢の歯

科医師が誕生しました。直近3年間の平均合格率は91・7%と飛躍を遂げています。本学の教育目標である「信頼される歯科医療人および研究者の育成」のため、教職員・学生が一体となって、さらなる熱い力を傾注しましょう。

また、世界に羽ばたく研究を推進するため、ハイテクセンターの設備が更新されました。研究活動も活発に遂行され、多くの学会・研究会が本学教授を大会長として開催されました。本学教授はさまざまな学会の理事長（小笠原正・日本障害者歯科学会、吉成伸夫・日本レジャー歯学会、黒岩昭弘・日本顎咬合学会、宇田川信之・歯科基礎医学会、増田裕次・日本咀嚼学会）に選出され、歯科医学研究発展の舵取りを担っております。

大学病院においては、矢島安朝病院長の下、21世紀型歯科大学病院をめざしたさまざまな病院改革がスタートし、軌道に乗り始めました。歯科診療部門においては、歯科医師養成機関としての機能を果たしながら、過去最高の医療収入となりました。医科診療部門においては、7つの標榜診療科（内科・消化器内科・神経内科・耳鼻いんこう科・整形外科・皮膚科（二條皮膚科クリニック）・婦人科（健診センター）と健診センター・健康づくりセンターが、歯科診療科と連携しながら最高の医療を提供しています。

昨年末には、本学創立50周年記念事業として建設されていた太陽光発電パネル2960枚を取り付けたソーラーカーポートが完成し

ました。環境負荷の少ないクリーンエネルギーを独自に確保し活用することで、脱炭素社会の実現に向けて、今後さらに積極的に取り組んでいきます。

長野県歯科医師会と連携し、歯科衛生士養成に向けた本学衛生学院の学生募集活動および定員増員計画も、今後さらなる推進を図ります。

2025年には団塊の世代が全て75歳以上になり、歯科医師数も次第に減っていく分岐点となります。一方、2040年には18歳人口が80万人に減少して現在の7割の規模となり、大学進学者数も約12万人減と予測されます。今後はこうした社会情勢に対応していかなくてはなりません。

独自性を発揮して今まで発展してきた松本歯科大学のさらなる発展のためには、本学に勤務する一人ひとりが担当分野を自ら解析・改革していくことが重要です。このことこそ、本学の運営基盤の強化に直結することは言うまでもありません。

松本歯科大学のますますの発展と、皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。

2023年が輝かしい一年となりますように。



QRコードを読み取ると、
松本歯科大学ソーラーカーポートの
動画をご覧いただけます。



「伝える力」が欲しい。2022年、日本では何が起ったか

内閣官房参与
松本歯科大学常務理事
特命教授
飯島 勲

今月号は『プレジデント』2023年1月13日号「リダーの掟 飯島 勲」より、2022年の岸田文雄内閣の主な成果に関する記事を要約して紹介します。

この原稿を用意しているとき、世論調査結果が発表された。岸田文雄内閣を支持する人は36%で前月の調査より3ポイント上昇、どうやら支持率低下傾向は落ち着いたようだ。

しかし、残念ながらこの結果は、岸田内閣の政策が正当に評価されたためではなく、人々の関心がサッカーワールドカップに移り、岸田内閣を攻撃する報道が減ったからだと思う。日本代表の予想以上の活躍で、日本人が何もかも忘れてサッカーを応援していたし、世界の強豪に恐れず立ち向かう勇気をもったと思う。森保 一監督の采配

と、それに応えた選手たちから拍手を送りたい。

岸田首相は、帰国後に選手たちが官邸を敬訪問したときには満面の笑みを浮かべ、自筆メモを愛用する森保監督とノートを交換したときには珍しくうれしそうな様子を見せた。こういうときに、長友佑都選手と一緒に「ブラボー！」と叫んだりできればいいのだが。小泉純一郎元首相はそういう面では天才的で、国民の共感を呼んでいたと思うが、岸田首相は発言が慎重すぎて淡泊に見えてしまう。岸田首相は、できることを確実にこなし、宣伝は最小限にと

どめている。私は岸田内閣には語り部が必要だと常々思っていたのだが、なかなか見つからないので、私が2022年のまとめとして、岸田内閣の主な成果を紹介しよう。



サッカー日本代表森保監督とノートを交換した岸田首相

まずはコロナ対策から。新型コロナウイルス感染症の流行も3年目に入り、感染症対策が日常化して、国民にとっては意識が薄れている面もあるだろう。しかし、岸田内閣は医療提供体制の強化、治療薬の確保などを続けている。2022年7月時点の100万人当たりの陽性者数は5.9万人と、36.3万人のフランス、29.0万人のドイツなど主要先進国と比べて低水準に抑えることができた。100万人当たりの死者数も、日本では107人で、米国の945人、英国の639人などと比べれば非常に少ない。3回目のワクチン接種率も6割を超えている。

コロナ禍の経済対策も継続しており、実質GDPはコロナ前の水準を超えて国民1人当たり429.8万円（総額538.8兆円）まで回復した。コロナ禍においても完全失業率は2.6%と主要先進国で最低となっている。

岸田内閣の成長政策である「デジタル田園都市国家構想」も前進している。構想推進交付金を採択して、デジタル実装に取り組みむ地方公共団体の数は倍増した。24年度末には1000団体への増加を目指す。また、「人への投資」を強化するための施策パッケージに3年間で4000億円の予算を準備した。これにより、学び直しや職業訓練を支援して、再就職や非正規雇用の正社員化、ステップアップを強力に推進している。

また、24年度末までに年間45万人のデジタル推進人材を育成する。「人」に焦点を当てた政策としては、孤独・孤立対策を担うNPO支援の予算も大幅に拡大した。23年には、「こども家庭庁」を創設し、こども政策を一元化する。

このほかにも、女性活躍推進や農林水産物の輸出促進、若年層の金融投資促進、観光拠点の再生や高付加価値化など、語り尽くせないことはたくさんある。最後に、岸田首相の得意分野である外交面である。就任から1年間で外遊は10回。のべ訪問国・地域数は19を数える。日本に海外の首脳を迎えた会合や、オンラインや電話での会談も含め、国際社会で日本の存在感を高めてきた。

23年、日本はG7の議長国として岸田首相の地元で広島サミットを開催する。ここで、多くの人々が岸田首相の実力を知ることになるはずだ。

経験のある会員17人で編成され、一丸となってプレーした。本学からは、研修歯科医の田代陽介、佐藤康吉、松田千寛の各先生、本学野球部員とともに2年生の植田彩睦君と鈴木泰成君が、運営面と試合の要所で活躍した。

最後に、運営に関わったスタッフの皆様および多大なるご支援および会場のご提供をいただいた松本歯科大学法人に感謝申し上げます。

折しも岸田内閣は、防衛費の増増を打ち出している。来年度から5年間の防衛費を総額43兆円とするのだそうだ。「敵基地攻撃能力」を持った長射程のミサイルなどを大量にアメリカから購入するつもりでいるらしい。その裏側では、大幅な増税や社会保障費の削減などが行われることになる。

アメリカとの約束だからと言うが、彼らの顔を国民の側に振り向かせるにはどうしたらよいのだろうか。

政府が当てにならないければ、せめて地方自治体に働き掛けてみることを考えたい。

子ども医療費の窓口無料化の運動は、歯科疾患への対策も含め、各地で成果を挙げている。

そこで高齢者の有床義歯についても医療費補助を求める運動はいかがだろうか。

「かつら」と同様に「入れ歯」についても、価格帯はピンからキリまであるし、「良い入れ歯は保険では無理ですよ」と主張する歯科医師が存在することは知っている。しかし、保険診療での有床義歯と限定すれば、それほど高価なものではない（総入れ歯下一組で初診から装着まで全部合算しても約7万円、かつらと比較すればガツクリくるほど安い）。その一割程度の補助は地方財政を危なくするようなものではないと申し上げておきたい。

ついですが、たとえ不採算になりかねない低点数でも、良心的な歯科医師と歯科技工士が心を込めて作り上げた義歯は、高価な保険外の義歯にけっして劣るものではないし、「保険で良い歯科医療を」と運動している歯科医療人が少なくはないことも知っておいてほしい。

折しも岸田内閣は、防衛費の増増を打ち出している。来年度から5年間の防衛費を総額43兆円とするのだそうだ。「敵基地攻撃能力」を持った長射程のミサイルなどを大量にアメリカから購入するつもりでいるらしい。その裏側では、大幅な増税や社会保障費の削減などが行われることになる。

アメリカとの約束だからと言うが、彼らの顔を国民の側に振り向かせるにはどうしたらよいのだろうか。

政府が当てにならないければ、せめて地方自治体に働き掛けてみることを考えたい。

子ども医療費の窓口無料化の運動は、歯科疾患への対策も含め、各地で成果を挙げている。

そこで高齢者の有床義歯についても医療費補助を求める運動はいかがだろうか。

「かつら」と同様に「入れ歯」についても、価格帯はピンからキリまであるし、「良い入れ歯は保険では無理ですよ」と主張する歯科医師が存在することは知っている。しかし、保険診療での有床義歯と限定すれば、それほど高価なものではない（総入れ歯下一組で初診から装着まで全部合算しても約7万円、かつらと比較すればガツクリくるほど安い）。その一割程度の補助は地方財政を危なくするようなものではないと申し上げておきたい。

ついですが、たとえ不採算になりかねない低点数でも、良心的な歯科医師と歯科技工士が心を込めて作り上げた義歯は、高価な保険外の義歯にけっして劣るものではないし、「保険で良い歯科医療を」と運動している歯科医療人が少なくはないことも知っておいてほしい。

折しも岸田内閣は、防衛費の増増を打ち出している。来年度から5年間の防衛費を総額43兆円とするのだそうだ。「敵基地攻撃能力」を持った長射程のミサイルなどを大量にアメリカから購入するつもりでいるらしい。その裏側では、大幅な増税や社会保障費の削減などが行われることになる。

アメリカとの約束だからと言うが、彼らの顔を国民の側に振り向かせるにはどうしたらよいのだろうか。

政府が当てにならないければ、せめて地方自治体に働き掛けてみることを考えたい。

子ども医療費の窓口無料化の運動は、歯科疾患への対策も含め、各地で成果を挙げている。

県歯科医師会が本学野球場で 松本国際高校女子野球部と交流試合 SMG 贈呈を機に親睦深める



白熱した交流試合

長野県歯科医師会（伊藤正明会長）は、県内初の高校女子硬式野球部として躍進中の松本国際硬式高校女子野球部2年生の8人を対象にスポーツマウスガード（SMG）提供事業を行い、11月27日（日）に本学野球場で贈呈式をした。式典後は、本学の野球部員や野球経験のある研修歯科医も協力する中、SMGを装着した県歯科医師会有志ら

でつくる特別チームと女子硬式野球部が交流試合を行い、親睦を深めた。

県歯科医師会は、より安全にスポーツに打ち込んでもらうようと、2018年から毎年、スポーツ選手へのSMG提供事業に取り組み、サッカーの松本山雅FCをはじめ県内のプロスポーツ選手や国体選手らに提供してきた。「成長期の若者にこそ装

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式をした。式典後は、本学の野球部員や野球経験のある研修歯科医も協力する中、SMGを装着した県歯科医師会有志ら

でつくる特別チームと女子硬式野球部が交流試合を行い、親睦を深めた。

県歯科医師会は、より安全にスポーツに打ち込んでもらうようと、2018年から毎年、スポーツ選手へのSMG提供事業に取り組み、サッカーの松本山雅FCをはじめ県内のプロスポーツ選手や国体選手らに提供してきた。「成長期の若者にこそ装

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

は一生の宝を守ること」と、歯の大切さにあらためて触れながら代表選手に目録を手渡した。

着してほしい」と、今年は活躍に期待が高まる松本国際硬式高校女子野球部で、部の中核を担う2年生の8人を対象にした。9月に口腔内を型取りし、10月に完成させて届けた。選手たちは既に有効に活用している。

贈呈式で伊藤会長は「高校生

のスポーツでもスポーツマウスガードは有効。歯を守ること

新春特別インタビュー

長野県歯科医師会・伊藤正明会長

「県内に歯科医師養成機関があることは
県民にとって誇らしく貴重な財産です」

「健口」の重要性を掲げ、さまざまな取り組みを続ける長野県歯科医師会。1100人余の会員を有するこの組織を束ねている伊藤正明会長は2019年の就任以来、口腔の健康の重要性を訴える広報活動や訪問診療の推進、スポーツデンティストの養成などに前向きに取り組んでこられた。将来の県内の歯科医師不足を見据え、本学との結びつきも強められていく。新しい年の展望や本学への要望を宇田川信之歯学部長が聞き出した。

歯科健診の重要性を
県民にさらにアピール

Q1…口腔の健康と全身の健康との関連性が明確になり、歯科健診の重要性があらためて脚光を浴びています。長野県における歯科健診の受診率の現状はいかがですか？

伊藤…長野県の歯科健診の受診率は、高い県と比べるとその半分程度と低いのが現状です。その一因は興味の低さにあると考えます。

今や、歯や口の健康の重要性は広く認識されるようになり、政府は全国民に歯科健診を毎年受けてもらう「国民皆歯科健診」の導入を検討する方針を固めました。歯の健康を維持して他の病気の誘発を抑え、健康寿命を延ばすことで、医療費の抑制を目指したいとしています。

われわれとしても2023年も引き続き、多くの県民の方に口腔の健康について認識していただき、受診してもらえよう、広報活動に力を入れていきます。これまでもスピードスケートの小平奈緒さんに「長野県民健口大使」をお願いしたり、書道パフォーマンス甲子園で三連覇を果たした松本蟻ヶ崎高校書道部に「県民健口応援サポーター」を委嘱したり、ヤポンスキーこぼやし画伯さんのイラストを使ったCMを放映したりしてきましたが、2023年も、

特に受診機会の少ない若い世代に向けてアピールしていきたいと思っています。

オーラルフレイルの
普及啓発と予防に努める

Q2…「オーラルフレイル」(口腔機能の衰えが全身の老化につながるという考え方)について、県歯科医師会ではどのように対応していきますか？

伊藤…平均寿命と健康寿命の差は約10年あり、この差を縮めて要介護状態にならないようにするにはオーラルフレイル対策がとても重要です。

長野県の県歯科口腔保健推進条例が一年前に改正され、「オーラルフレイル対策」についての文言も初めて加えられました。県には、新たに多職種によるオーラルフレイル対策のタスクホル

スも立ち上げられています。オーラルフレイルは、早期に気づき対応することで、健康な状態に戻すことができるので、県と一緒にオーラルフレイルの普及啓発と予防活動に取り組んでいます。所定の研修会を修了したオーラルフレイルに対応可能な歯科医療機関をホームページにも掲載するなどしているの



伊藤会長(右)に話を聞く宇田川歯学部長

多くの方に関心を持っていただきたいと思います。

食することは生きることであり、歯と口の健康にはこれからますます注目が集まるでしょう。オーラルフレイル対策の普及によって、これからの歯科医療も大きく変わるのではないのでしょうか。

県歯科医師会独自の
スポーツデンティスト制度

Q4…長野県体に向け、スポーツデンティストを養成する独自の制度を創設され、精力的に取り組まれていると聞かれています。

伊藤…昨今高まるスポーツ歯科のニーズに対応するため、県歯科医師会独自に「信州スポーツデンティスト制度」を設けました。長野県で国民体育大会(国民スポーツ大会)が開催される2028年に向け、県内に少なくとも100人ほどのスポーツデンティストが必要になります。

そこで、独自にカリキュラムを組み、勉強していただき、テストを受けて通った先生方を認定しています。現時点で100人近くを認定しました。国体に向けては、マウスガード製作や救急・外傷対応などで、松本歯科大学にも大いにお世話になると思います。

歯科医師や歯科衛生士の
不足に危機感を抱く

Q5…県歯科医師会には歯学部、衛生学院ともに学生募集に協力していただいております。

伊藤…県歯科医師会は未来構想の検討委員会を立ち上げ、10年先、20年先の県歯科医師会のあり方の検討を始めています。約20年前と現在を比較すると、県内の歯科医師数はほぼ同じです

が、およそ50歳だった歯科医師の平均年齢が、現在は61歳になっています。一方で、摂食嚥下など歯科医師の仕事の領域は拡大していて、今後は歯科医師不足が懸念されます。すでにかなり激減している地区もあり、危機感を抱いています。

また、歯科衛生士は診療チームの重要な一員ですが、長野県では完全に不足しています。歯科診療は治療からメンテナンス、管理の時代になり、ニーズはもっと増えていきますので、県内で活躍してくれる人材をぜひ育ててほしい。貴学の衛生学院が学費を減額し、募集人員を増やして歯科衛生士の育成に努められていることは、ありがたいことです。

県民の健康寿命延伸のため
協力関係をさらに強化

Q6…本学と長野県は2020年に「連携協定」を締結し、相互連携による歯科口腔保健活動を推進しています。県歯科医師会とも手を携えていきたいと思いますが、本学には今後、どのようなことを望まれますか？

伊藤…松本歯科大学には、県内唯一の歯科医師養成機関として、しっかりと歯科医師を多数養成していただきたいと思っています。そして卒業生にはぜひ県内に残ってもらい、活躍してほしい。また大学病院におかれはさらに専門性を高め、開業歯科医師と簡単にキャッチボールができる関係を構築していただき、県内の歯科診療の充実に向けて一緒に取り組んでいただきたいと考えています。

この地方にこのような素晴らしい歯科大学があることはたいへん誇らしく、長野県の財産だと思っています。県民の皆さんの口と歯と健康の維持増進、ひいては健康寿命延伸に向けて、2023年もぜひご協力をお願いします。

馬場 一美・日本補綴歯科学会理事長
羽毛田 匡・日本顎関節学会指導医

第4学年クランブリッジ補綴学で特別講義

歯科補綴学講座では、臨床経験や研究実績が豊富な先生をお招きして、年間数回の特別講義を実施している。10月27日(木)には、馬場一美先生(本学客員教授、昭和大学主任教授)を、11月10日(木)には羽毛田匡先生(本学非常勤講師、小海町などで開業)をお招きして、講義館201教室にて第4学年のクランブリッジ補綴学の特別講義を開講した。



馬場先生

馬場一美先生は、日本補綴歯科学会理事長、昭和大学



羽毛田先生

今回は、補綴臨床においても対応に苦慮することの多い、顎関節症の基礎と臨床についてご講演いただいた。従来、顎関節症の治療法は咬合調整や外科手術等が推奨されていたが、現在ではこれらの治療は否定的であること、保存療法・認知行動療法が主流であることを強調された。

両先生の講義中の質問に対して、本学学生は正しく回答しており、講義内容の理解度を確認されていた。

講義を終えた両先生は、本学学生の真摯に講義に参加する姿勢に、「次年度も講義をぜひ行いたい」との感想を述べられ、帰路につかれた。

(歯科補綴学講座 教授 樋口大輔 講師 吉田寛)

歯科医師国家試験に向け
第6学年の勉強会盛ん

歯科医師国家試験に向けて、第6学年の勉強は総仕上げの時期に入っている。夜間や休日にも大学内で自主勉強会が頻繁に開かれるようになり、学生たちが真剣な表情で重要事項の再確認などに打ち込んでいる。

平君が世話役を務める15人ほどのグループは、10月から毎週火曜日と木曜日の夜に約3時間、創立30年記念棟2階のカフェテリアで勉強に励んでいた。メンバーは授業を終えた後、急いで軽い夕食を済ませた後、教科書を入れた大きなカバンを持って続々と集まって来て、思い思いに勉強に取り掛かった。

基本的には個々に必要な課題を持ち寄り自分のペースで進めているが、模擬試験の後には全員で試験の振り返りをする。長尾君は「お互いのところを教え合ったりできる」と、仲間と一緒に勉強することの良さを挙げる。教授陣が厚意で加わりサポートしてくれることも



カフェテリア2階で行われている自主勉強会

第22回長野県歯科口腔外科協議会 栗原祐史教授が大会長 診療に関わる情報を交換



協議会に参加した関係者

11月19日(土)、本学図書会館学生ホールで第22回長野県歯科口腔外科協議会が行われた。本協議会は、長野県内の歯科口腔外科に関わっている先生方と診療に関わる情報交換の場として本学と信州大学が隔年に主催している。本来は「一般口演」、「特別講演」および「懇親会」

を行っているが、コロナウイルス感染症の影響により、2019年より2年間の開催中止を経て、昨年よりようやく再開することができた。残念ながら「懇親会」の開催は本年度も中止とした。今回は、本学口腔顎顔面外科学講座の栗原祐史教授が大会長

を務め、長野市、上田市、佐久市、飯田市など広い長野県内から65人が参加し、15演題の発表が行われた。本学からは佐藤助教が顎矯正手術の技術紹介および術後安定性の評価について、また、柳沢みさき歯科衛生士が外来診療における現在の感染予防対策の実践について報告し、いずれも大変有意義で活発な討論が行われた。

特別講演には昭和大学歯学部口腔外科学講座の代田達夫教授をお迎えして「コンピュータ支援による顎矯正手術—安全で正確な手術を目指して—」という題でお話をいただいた。当科でも力を入れている顎矯正手術について正確性かつ安全性の観点から大変興味深い講演であった。

11月12日(土)、本学30周年記念棟3階の大会議室常念にて日本歯科医師会、日本歯科技工士会共催、長野県歯科技工士会担当の感染症予防歯科技工士講習会が行われた。

病原体の知識と対応を学ぶ 長野県歯科技工士会講習会

講演は、東京歯科大学名誉教授の奥田克爾氏が「病原微生物の基礎知識」と題して、日技認定講師の大西正和氏が「補綴領域における感染の考え方とその対策—SARS-CoV-2における新しい技工様式」と題して、2題が行われた。

まず奥田先生から細菌やウイルスに関する基礎知識、予防策を教わり、大西先生からは臨床における技工室の実践的対応策について講義を受けた。歯科技工士にとって習得する際の科目に細菌学はなく、臨床においても患者と接する機会が少ないため軽視されがちではあるが、肝炎などに感染するリスクがあることを知り、今まで以上に印象、試適された補綴物、義歯の修理などに当たっていくべきである。



病原微生物について理解を深めた講演会

第8波の新型コロナウイルス感染症が猛威を全国的に振るうなかでのタイムリーな講習会であった。

ここ最近の講習会、会議の集まりに関して感染症対策は検温、アルコール消毒、パーティション、間隔の確保を行い、なおかつWebによるハイブリッド開催で行うことが多い。本県の技工士会スタッフもハイブリッド開催には慣れてきたためスムーズな進行で、両講師も他県で行った中で一番満足のいく講習会だったと話された。

北海道医療大学歯学部教授・安彦善裕先生が講演 歯科心身症の病態生理と対応



講義する安彦先生

12月13日(火)、北海道医療大学歯学部 生体機能・病態学系 臨床口腔病理学分野教授の安彦善裕先生を講師にお迎えし、大学院セミナー「歯科心身症の病態生理と対応」が開催された。

安彦先生は、東京歯科大学大学院(病理学専攻)を修了後、ブリティッシュコロンビア大学(カナダ・バンクーバー)に留学され、北海道医療大学にて口腔病理学の研究、教育に従事されておられる。2005年には

今回のセミナーでは、安彦先生はまず「歯科心身症」の定義からお話しされた。心身症がストレスの増減によって身体症状も軽重の変化を呈するものであるのに対し、歯科心身症とは身体疾患を伴わないが医学的に説明困難な口腔症状を訴えるものであり、精神科領域では該当する病名がないことも多いと述べられた。

したがって、歯科として器質的な疾患が見いだせないからと言って闇雲に精神科や心療内科に紹介しても多くの場合は「身体症状」として特段の対応もなく患者さんは再び歯科を来院されることも少なくない。このような経過は患者さんのみならず歯科医師やCode Dentalスタッフにとっても決して望ましいものではない、歯科医師が精神医学的な知識を背景に精神科や心療内科へ紹介すべきか否かを判断し、紹介の必要のない場合には歯科医師による治療介入が望まれると述べられ、多数の歯科心身症患者に対するご自身の症例対応について詳細に言及された。

続けて安彦先生はアフタ性口内炎や口腔扁平苔癬ではストレスの増大とともに症状が悪化することや、ストレスは腸内細菌や口腔内細菌の分布や数に影響を与えることが知られ、腸腸相関の観点から心理的ストレスが舌と口腔と腸、脳と口腔の相関に基づく

NEW FACE

本年度に新しく職員
の仲間入りをされた本
学病院で働く歯科衛生
士さんを2回シリーズ
で紹介します。

間瀬 紅瑠美さん
愛知県半田市出身

今回のセミナーは、日常の診療現場で遭遇する患者さんへの対応として明日からでも利用できる情報はもとより、最新の研究、疾病概念も解りやすく解説いただき、本学のみならず信州に歯科心身医学の種をまくような大変変容に富んだセミナーであった。

(病理学講座 教授 村上聡)

三澤 真優さん
伊那市出身

お口の中のトラブルで困っている人の力になりたいと思い、歯科衛生士の道に進みました。より専門的な知識や技術を習得するため、歯科大学病院で働き始めました。矯正歯科に所属され、アシスタントとして正しい嚥下や舌の位置などを指導したり、正しい歯磨きを指導したりしています。

Matsumoto Dental University SNS Information



LINE



twitter



Instagram



facebook



1月行事予定
5日(木)〜6日(金)
卒業試験(第6学年)
6日(金)〜11日(水)
後期定期試験Ⅱ(衛生学院第5学年)
16日(月)〜27日(金)
定期試験(第1〜3学年)
14日(土)
ファウンダーズデイ
14日(土)〜15日(日)
大学入学共通テスト
19日(木)
臨床実地試験CPX(第5学年)
25日(水)
大学院発表会
28日(土)〜29日(日)
第16回歯科医師国家試験(東京)
29日(日)
創立記念日(51周年)

方のお口の中の状態に改善が見られたときは、歯科衛生士になつてよかったと感じます。これからも学び続け、専門性を高めていきたいです。

人事異動
〔配置換・兼務〕12月1日付
野澤 良子(実務経験者、兼任)
〔昇任・配置換〕12月1日付
堀内 規子
〔配置換〕12月1日付
永井 志保(実務経験者、兼任)
〔兼務解く〕12月1日付
新村 和久(事務局衛生学院事務室主任)
〔本務変更〕12月1日付
中野 唯人(重慶院学芸部学芸員)
須澤 秀雄(事務局衛生学院事務室主任)
〔採用〕12月1日付
赤羽 真理(臨床実地試験CPX)

受験生の皆さんへ



見せてほしい 君の個性 君の情熱

一般選抜(I期)
共通テスト利用選抜(I期)

●試験日
2023年2月1日(水)・2日(木)
◎希望する試験日を選択、または両日の受験も可能です。
共通テスト利用選抜は、本学個別試験はありません。

●出願期間
1月6日(金)〜1月26日(木)
●試験場
本学・東京・大阪・福岡

■お問い合わせ■

HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学 入試広報室

www.mdu.ac.jp